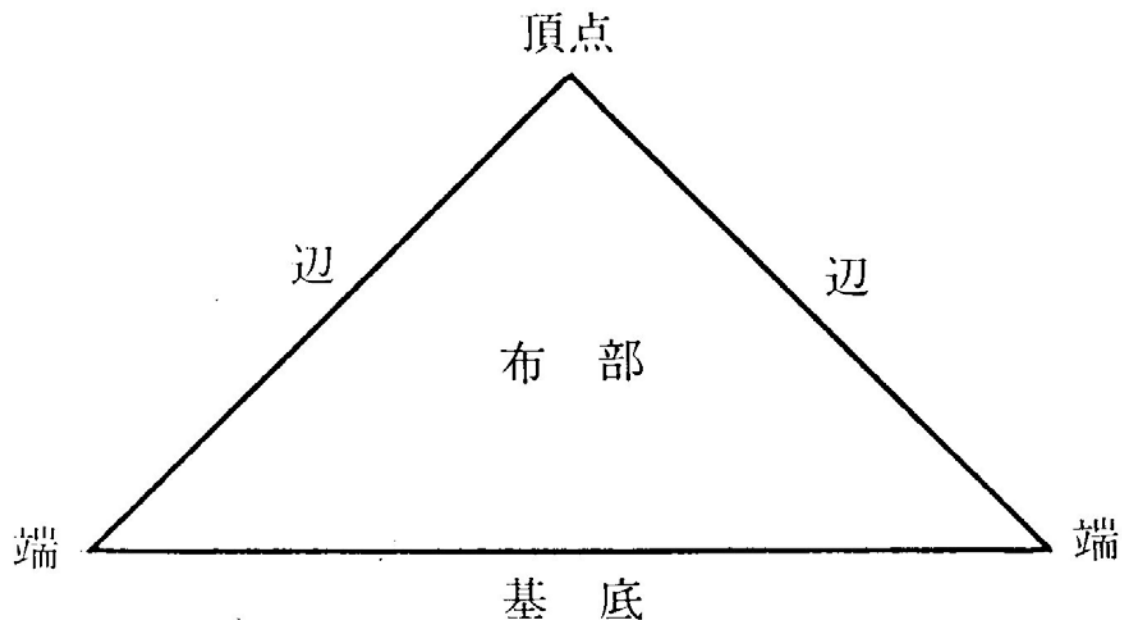


三角巾は、救急処置における包帯処置として、止血に必要な「圧迫」、創傷部を空気に触れないようにする「被覆」、打撲や骨折箇所を安静に保つための「固定」、に使われます。

### I. 三角巾の名称

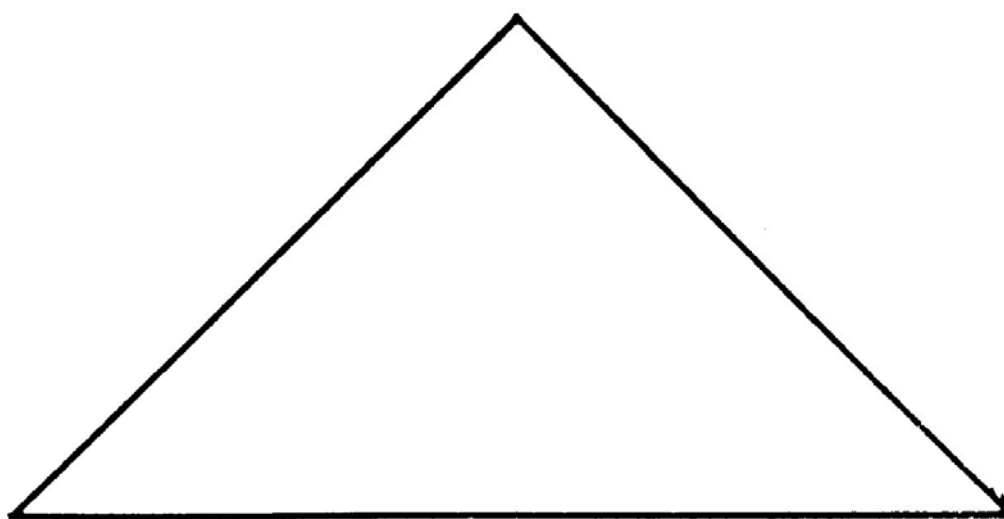


### II. 三角巾の形態

三角巾の使用時の形態により主に3種に区分されます。

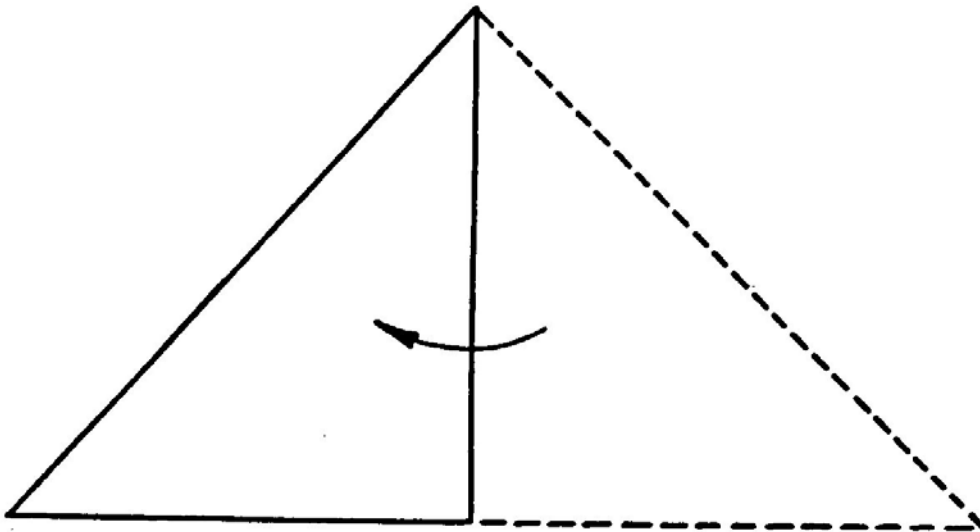
#### 1. 全巾

体表面を被覆(ガーゼ等の支持も含む)する場合及び腕を吊る場合に用いるもので、圧迫包帯止血を目的としては活用できません。



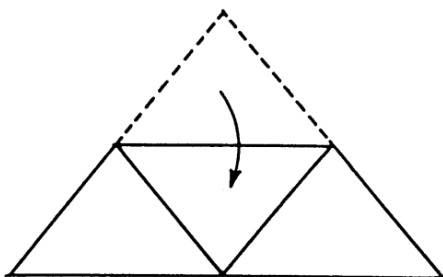
## 2. 半巾

全巾の頂点と基底中央を結ぶ線で切断するか、両端を重ねて小範囲の体表面(手掌及び足部等)を被覆する場合に用いるが、圧迫包帯止血を目的としては活用できません。

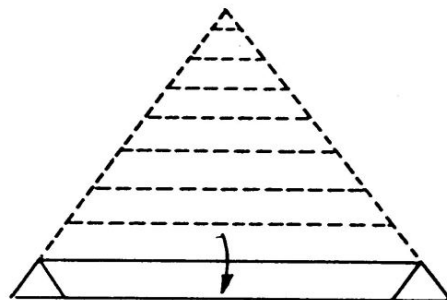


## 3. たたみ三角巾

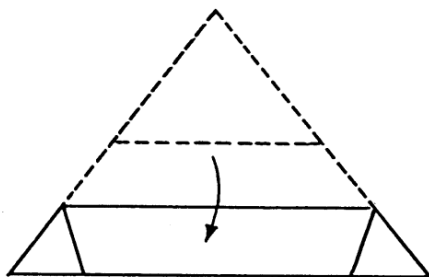
全巾の頂点から基底に向けて折り、たたみ(2つ折り、4つ折り、8つ折り)込んで作成します。創傷部の被覆包帯、圧迫包帯止血、支持包帯、固定包帯等に広く利用できます。



2つ折りたたみ三角巾



8つ折りたたみ三角巾

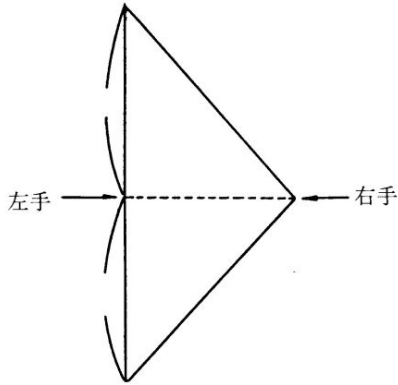


4つ折りたたみ三角巾

### Ⅲ. たたみ三角巾の作成方法

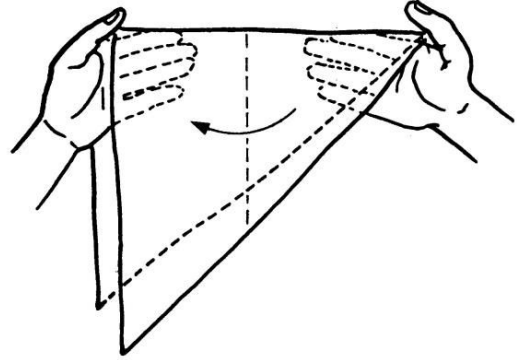
地面（床面）、衣類等に接触させることなく、手に持ったままの状態で作成し、三角巾の汚染を防止します。

1. 全巾基底部中央を左手で持ち、右手で頂点を  
持ちます。

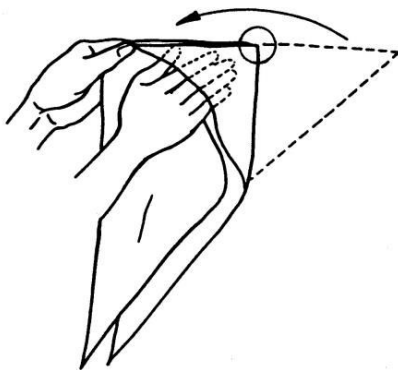


2. 半巾を作ります。

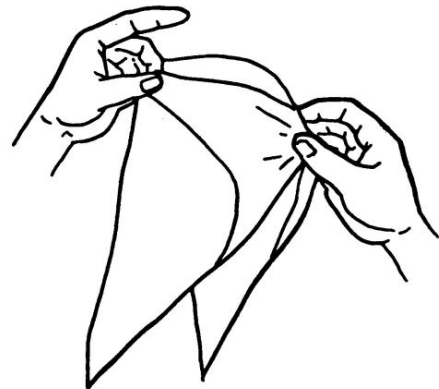
右手、左手ともに拇指を外に出して、他の4指を三角巾の中に入れ、右手（頂点側）を手前（山折り）に折り、左手と右手が合わさるようにし、左手の拇指で頂点を押さえます。



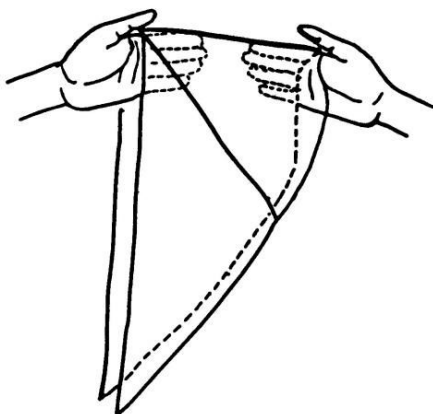
3. 右手を手前1枚目と2枚目の間（図は示指～小指まで入っている所）に入れ、折り目の頂点部をつまみます。（○印の部分）



4. 前3の頂点を手前に引くように開き、開いた側を外側に返して2つ折りのたたみ三角巾を作成します。



5. 2つ折りにした後、右、左手ともに拇指を外側に残し、他の4指を内側に入れます。

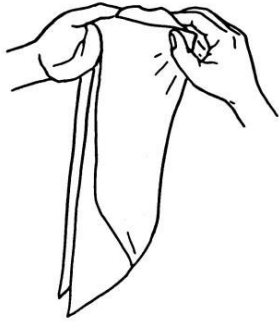


6. 右手側を手前（山折り）に折り、左手と右手が合わさるようにし、左手の拇指で右手側の折り目の頂点を押さえます。

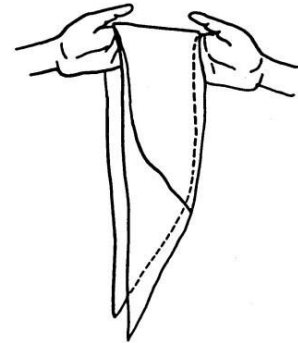
右手を手前1枚目と2枚目の間（第2～5指が入っている所）に入れ、折り目の頂点部をつまみます。



7. 両腕を開いて内側を外側に返して4つ折りのたたみ三角巾を作成します。

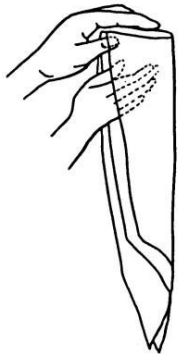


8. 4つ折りにした後、右、左手ともに拇指を外側にし、残り示指～小指を内側に入れておきます。

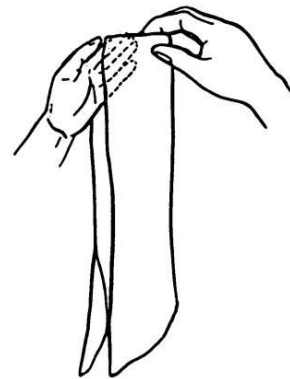


9. 右手側を手前(山折り)に折り、左手と右手が合わされるようにし、右手拇指で左手側の折り目の頂を押さえます。

右手を手前1枚目と2枚目の間(図は示指～小指の入っている所)に入れて、折り目の頂点部をつまみます。



10. 両腕を開いて内側を外側に返して、8つ折りたたみ三角巾を作成します。



#### IV. 三角巾の結び方、解き方

三角巾を結んだり、解いたりする操作は傷病者に与える苦痛を最小限にとどめることを前提として、熟知しておく必要があります。

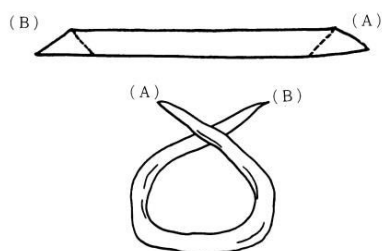
##### 1. 結び方

三角巾の両端を結ぶときは、「蝶々結び」、ではなく「こぶ結び」、で結びます。講習では本結びを推奨し指導しています。

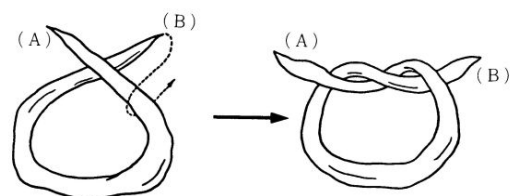
##### ● 本結び

a 8つ折りのたたみ三角巾を準備します。

b 三角巾の右端(以下「(A)」)を左端(以下「(B)」)の上に重ねます。



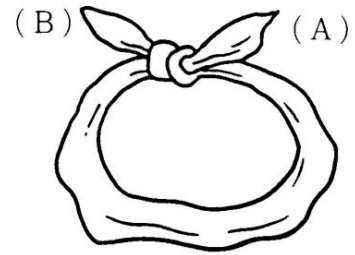
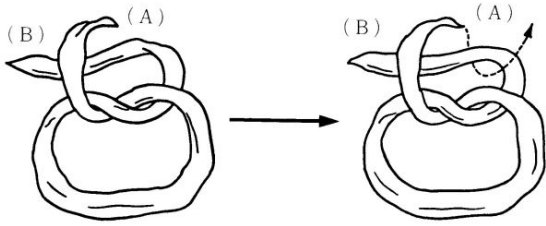
c (B)を上方に上げ、(A)の内側から(A)の下を通し、外側に出します。



d (B)の上に(A)を重ねて、(A)を(B)の上外側から

e (A)、(B)の両端を引き、しっかり締めます。

下を通し内側に出します。

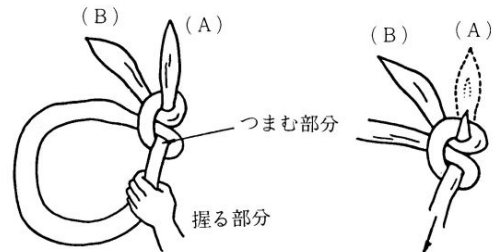
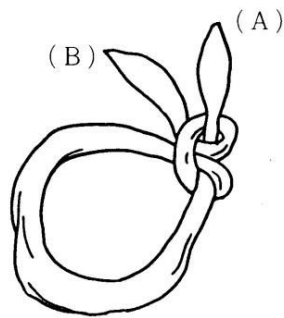


## 2. 解き方

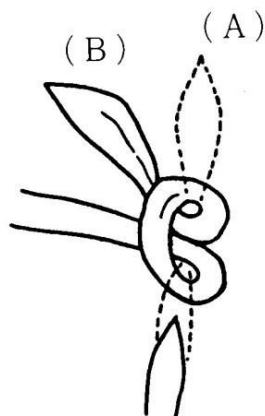
### ● 本結び

a 右(左)手で結び目近くの輪の内側部分を握ります。次いで左(右)手で片方の端(A)を力強く上方に引きます。(右手と左手で持っている部分の三角巾が一直線になるようにします)

b 左(右)手で(A)の端より離し、結び目の内側で結び目のところを左(右)手の拇指と示指でつまみます。



c 結び目の上方((A)の端の方)に押し上げるようにしてしごきます。このとき右(左)手も下方に引くようにします。

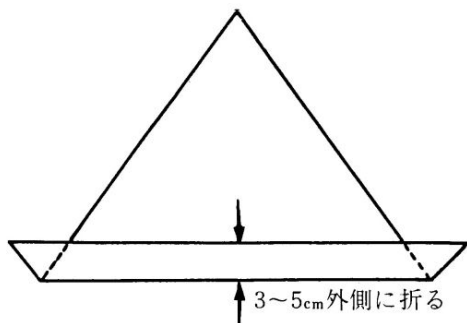


## V. 三角巾による処置の仕方

### 1. 被覆包帯(全巾)

#### ① 頭部

a 基部を3~5cm幅に折り、折った側を外側にして、傷病者の眼窩上部に折り目の基部を当て、頂点は頭部から後頭部に垂らしておきます。



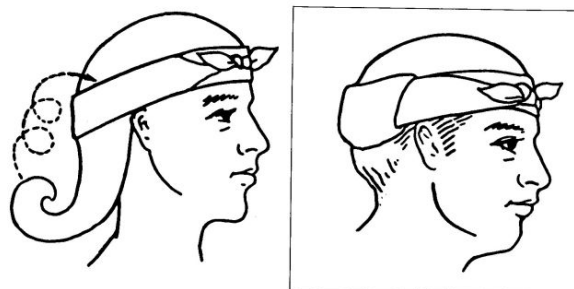
b 側頭部にある三角巾の両側を握り、三角巾で額を絞り込むようにしながら両耳の後方で三角巾をたぐり、更に絞り込み頭部に密着するようにします。

c 三角巾の両端を外れないよう、外後頭隆起の下で交差させ、前額部に回します。



d 前額部に回した三角巾の両端を、本結びで結びます。

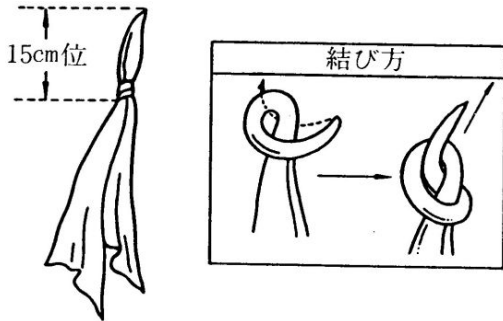
e 頂点部分をたたみ込むようにして、外後頭隆起まで巻き込み離脱しないようにして末端を処理します。



② 顔面

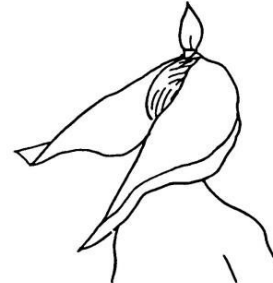
顔面の熱傷等に用います。

a 三角巾の頂点から、10～15cm幅位のところを、「トメ結び」で結びます。



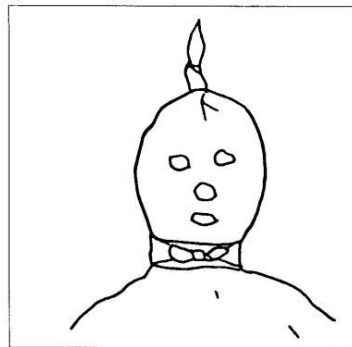
b 頭頂部に結び目が来るように当てて、顔面を覆い、両端を後頭部で交差します。

基部を折り、顔面を覆うように三角巾の大きさを調節します。



c 交差した三角巾の両端をそのまま前方に回して、顎の下で結びます。必要に応じ、眼、鼻、口の部分を指でつまみ、はさみで穴を開けます。

顎の下で結ぶ場合、顎部を強く巻きすぎ窒息させることのないよう留意します。

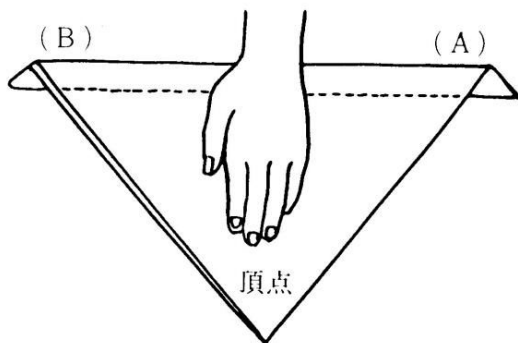


2. 被覆包帯(全巾および半巾)

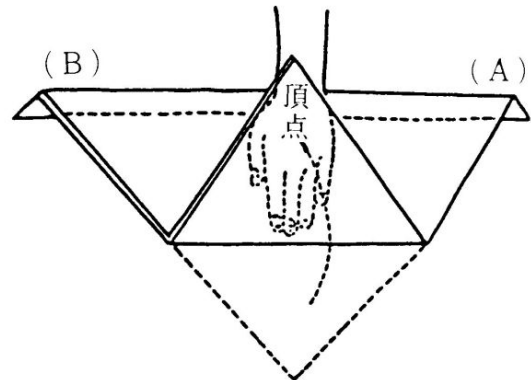
創傷部を空気に触れないようにするために用います。

① 手部

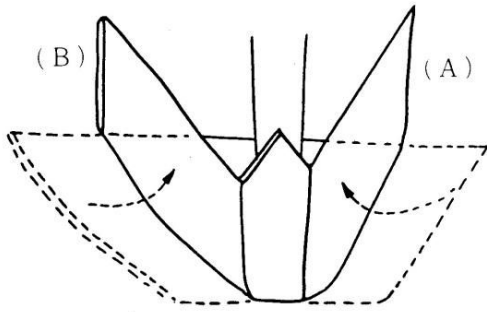
a 全巾または半巾の基底を3～5cm幅外側に折り、頂点側に手の指先が向くようにして、中央部に手を置きます。



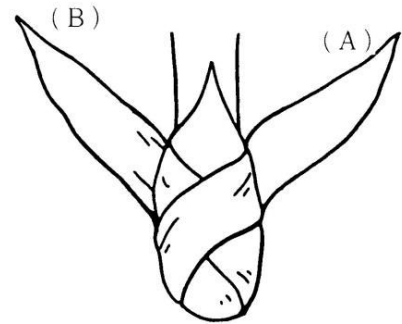
b 頂点を手背部に折り、手を包むようにします。



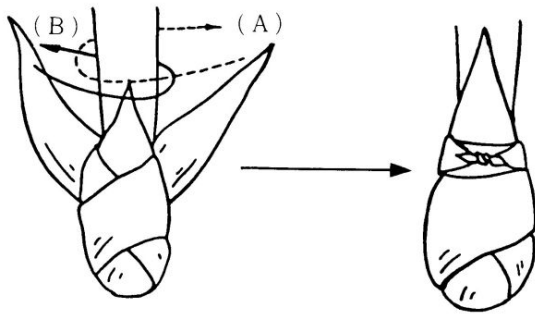
c 両辺を手背側に沿って斜めに折り込みながら手に密着させます。



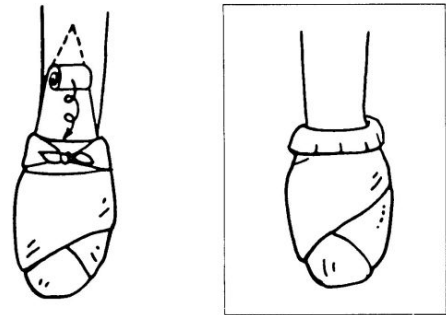
d 両端で手背部を覆って交差させ、更に手関節部で交差させます。



e 両端の余分を手関節部で後方に巻き込ませ、手背部で結びます。



f 頂点を内側に折り込み、完全に処理します。



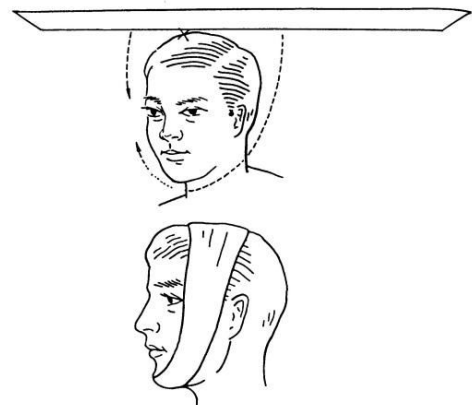
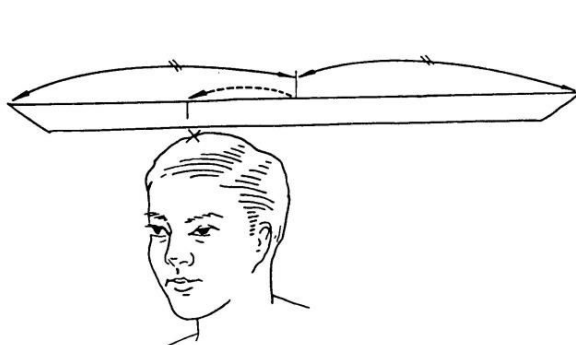
### 3. 圧迫包帯止血

出血している傷口にハンカチなどの清潔な布等を当て、その上から三角巾で処置をすることにより、「直接圧迫止血法」を行います。

#### ① 頭部

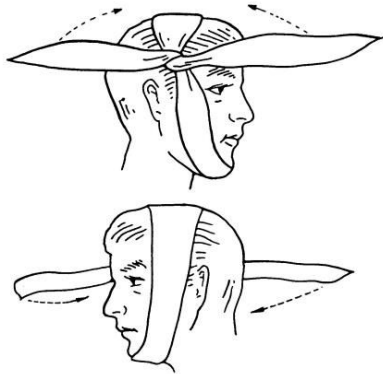
a 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の中央部を右手で持ち、左手で約15cm位の幅を保って持ち、頭頂部の受傷部にあてます。

b 長い方の端を頬部を包むように下顎部にあて、適度に張りながら反対側の側頭部に回します。

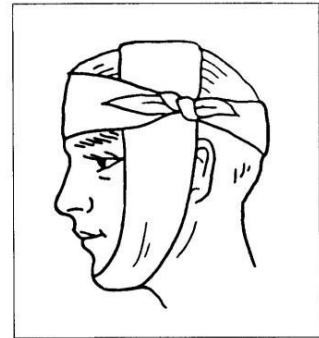




c 両端を側頭部(耳介やや上方)で交差し、一端を前額部から反対側の側頭部へ、他の端を外後頭隆起の下から反対側の側頭部へ回します。



d 両端を側頭部(耳介やや上方)のたたみ三角巾上で結びます。

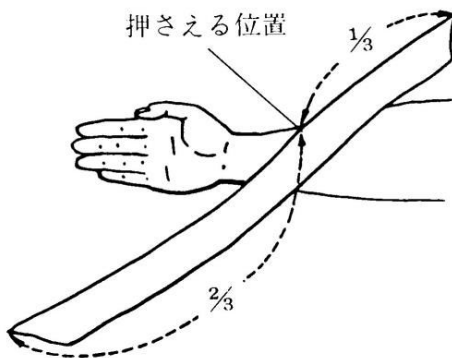


## ② 四肢

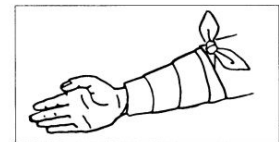
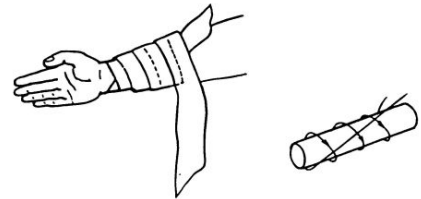
### i 前腕部・上腕部・下腿部・大腿部

a 8つ折りのたたみ三角巾を準備し、たたみ三角巾の全長の約1/3の部分を受傷部上に斜めにあて、手指で肘部側の三角巾を押さえます。

なお、下肢は4つ折り三角巾にして処置します。



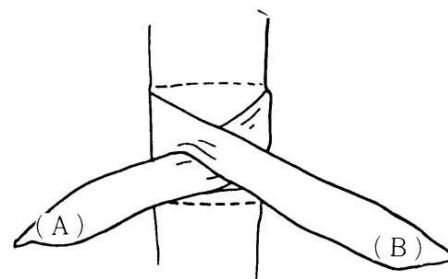
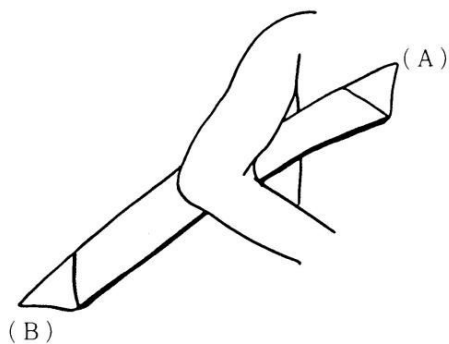
b 手側にあるたたみ三角巾の端を持ち、適度に圧迫しながら上腕に向かって順次巻き上げ、両端を結びます。



なお、重ね合わせた部分が開いて受傷部が露出したり、緩んだりしないように、先に巻いた三角巾に1/2から1/3ぐらい重ね合わせるように巻きます。

### ii 肘部

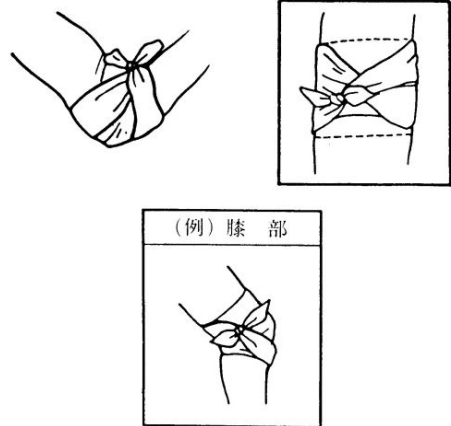
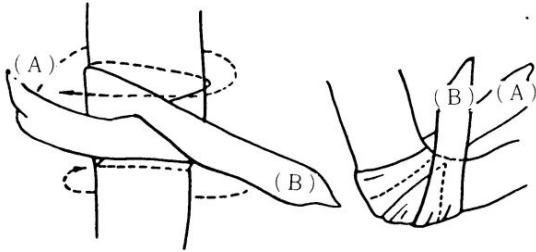
a 8つ折りのたたみ三角巾を準備し三角巾の中央部を傷病者の肘の外側にあて、両端を肘の内側で交差させます。



なお、膝部は4つ折り三角巾にして処置します。

b 交差した三角巾の下になっている端を上腕の方に、上になっている端を前腕の方にして、肘部外側を押さえているたたみ三角巾を重ねて押さえるようにしながら、それぞれ1巻きし、肘部内側に両端を持ってきます。

c 肘の内側で結びます。



#### 4. 固定包帯

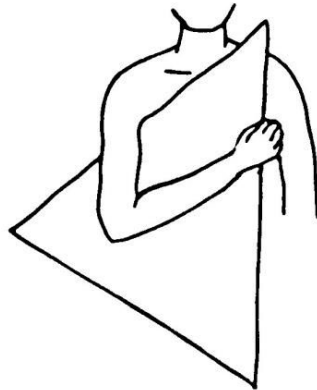
受傷部位を固定し動揺を防ぎ、疼痛を軽減させるとともに、悪化防止を図るために用います。

i 全巾によるもの

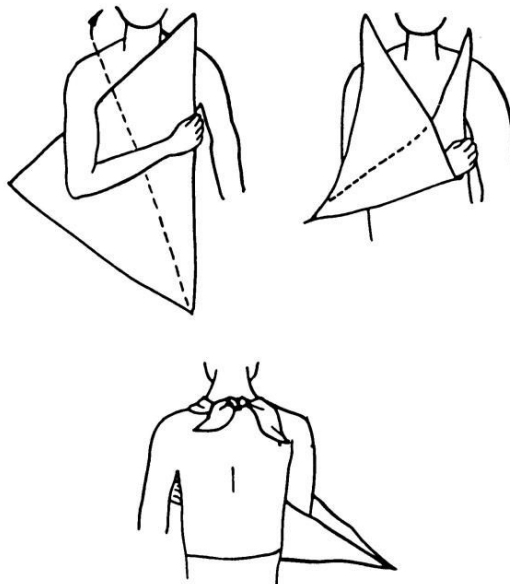
##### ● 堤肘固定三角巾

上腕・前腕の骨折又は骨折の疑いのある場合に用いられます。

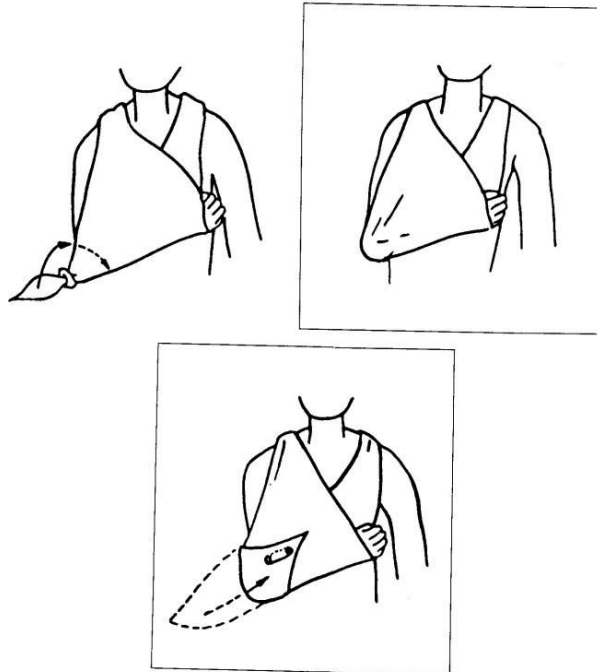
a 全巾を1枚準備し、全巾の一端を健側肩部に掛け、基底部分が体側と平行になるようにし、全巾の頂点は、患側手掌は、自然に胸(乳房部)にあてます。



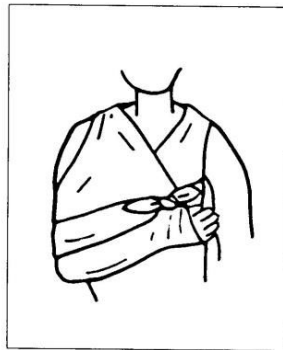
b 下肢側の端は、患側の前腕を包んで折り上げ、患側の肩に掛けて、両端を後頸部で結びます。



c 肘部にある全巾の頂点は、とめ結びで結んで、三角巾の頂点を内側に入れ処理します。また、安全ピンを用いて処理します。



d 8つ折りたたみ三角巾で、上腕部(肘部に近い部分で受傷部を避ける)を固定します。



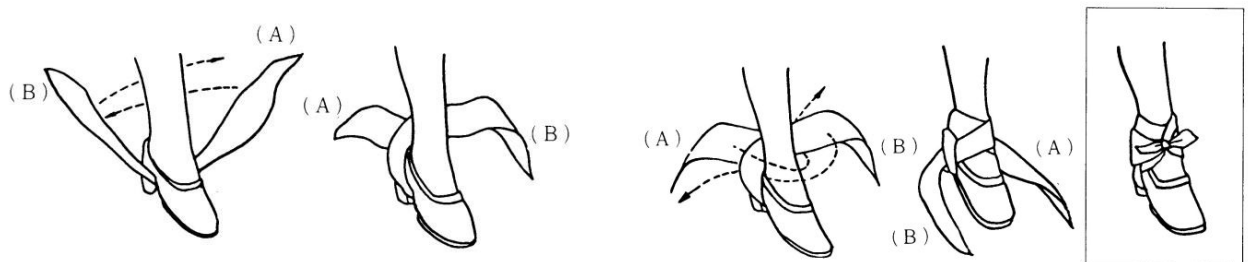
なお、指先は血液の循環を確認するため覆わないで若干出しておくようにします。

ii たたみ三角巾によるもの

● 足関節部

a 8つ折りのたたみ三角巾1枚を準備し、三角巾の中央部を足底部に当て、三角巾の両端を足関節後方に引き上げて交差させます。

b 三角巾の両端を足背部の方に回し足関節部で交差させ、両端を踵部を斜めに巻いた三角巾の内側に通し、両端を足関節前方に引き締めながら、足関節前部で結びます。



なお、靴等の履物は脱がす必要はなく、傷病者に動揺させない配慮が必要です。